

C-2 地域連携型コースの概要

対象：行政、社会福祉、学校教育、NPO 法人等で対人支援職に従事する社会人、あるいはそれらの職を目指す学生等が主な対象です。医療職等で地域との連携について学びたい方、心理職等個人の支援にあたる方で社会的支援の視座を深めたい方等も対象に含みます。

受講料：各コース 9 万円（学生は 5 万円）

開催場所：東京大学本郷キャンパス・医学部附属病院内会議室（文京区本郷 7 - 3 - 1）

1 日の時間割（隔月で 1 回、土日 2 日間×6 回）

9:00	12:00	13:00	15:00	16:00	17:00	18:00
講義 or プロジェクト 内部ミーティング・演習	昼 休 憩	講師の講演	質疑 応答	講師を囲んでの 座談会・茶話会	振り返り 内部ミーティング等	

プログラム・メイン講師(2019 年 1 月時点)

日程	テーマ	講師
4/13(土)AM	価値に基づく支援者育成における 3 つの基本素養 —Trauma-Informed Care, Co-production, Organizational Change—	笠井清登
4/13(土)PM	「価値」の理解に基づく精神医学	笠井清登
4/14(日)AM	自他の身体に関する知識と社会変革 —当事者研究とソーシャルマジョリティー—	綾屋紗月
4/14(日)AM	トラウマとスティグマ —依存症自助グループのあゆみと課題—	上岡陽江
4/14(日)PM	当事者研究と専門知 —精神保健サービスの共同創造の方法論を目指して—	熊谷晋一郎
6/15(土)AM	プロジェクト内部ミーティング・演習	笠井清登
6/15(土)PM	対人支援サービスの質の評価と PDCA サイクル	水流聡子
6/16(日)AM	22q11.2 欠失症候群 —重複する障害を抱えた子どもとその家族の生活—	三ツ井幸子
6/16(日)PM	全市民を対象とした地域包括ケアにおけるメンタルヘルスの戦略	竹島正
8/17(土)AM	プロジェクト内部ミーティング・演習	笠井清登
8/17(土)PM	東日本大震災におけるメンタルヘルス	大塚耕太郎
8/18(日)AM	文京区の地域精神保健 —プライマリ・ケアと精神科医療を統合した訪問診療の経験から—	夏堀龍暢
8/18(日)PM	文京区の虐待対策と子ども家庭支援	文京区子ども家庭支援センター 職員
10/19(土)AM	プロジェクト内部ミーティング・演習	笠井清登
10/19(土)PM	死生学の展開とグリーフケア	島菌進
10/20(日)AM	トラウマ支援の実践	鶴田信子
10/20(日)PM	臨床心理学と人類学 —当事者との共同創造に向けた心理臨床の再考—	東畑開人
12/21(土)AM	プロジェクト内部ミーティング・演習	笠井清登
12/21(土)PM	ピアサポートとリカバリー	宮本有紀

12/22(日)AM	プロジェクト内部ミーティング・演習	笠井清登
12/22(日)PM	精神保健研究の方法論	山口創生
2/15(土)AM	プロジェクト内部ミーティング・演習	笠井清登
2/15(土)PM	学校メンタルヘルスと若者の自殺対策	石井綾華
2/16(日)AM	プロジェクト内部ミーティング・演習	笠井清登
2/16(日)PM	薬物依存症をもつ人を地域で支える	松本俊彦

内容：

トラウマインフォームドケア(Trauma-Informed Care)、当事者との共同創造(Co-production)、そしてそれらを実現するために自らの働く組織の文化の変革(Organizational Change)。こうした素養を身につけるべく、価値、トラウマ、スティグマなどの重要な概念の理解や、地域レベルでの精神保健サービスの構想、支援の質の評価と改善のための方策、精神保健医療福祉に関する研究の方法論などを系統的に学びます。講義や演習(8時間×12日)と、学内(6時間×2日)や学外(6時間×2日)連携施設における実習を行います(詳細は募集要項を参照)。

コースのコンセプト：

少子高齢化・人口減少社会の中で、社会保障財源は限界をむかえており、保健医療制度の持続可能性が懸念されている。社会保障の効率性が求められている一方で、歴然と存在する健康格差を看過することなく、ヘルスケアの公平性を高めていくことも対人支援の専門職の役割である。価値が多様化する中で、それぞれの人の持つ多様な価値を尊重しながらも、自殺やそれに似た「緩慢な自殺のような生き方」の原因を本人だけに帰属させて「自己決定である」と放置することなく、有効な支援を提供することが求められている。薬物やアルコール等の物質依存にとどまらず、ギャンブルやインターネット・ゲーム、虐待や暴力までを含んだひろい意味でのアディクション、統合失調症やうつ病などの精神疾患、そしてこれらを複合的に抱える人達に対する支援の方策は未だ不十分であり、対象者の特性に応じた適切な治療や支援が求められている。近年ではアディクションや精神疾患の背景にあるトラウマ(心的外傷)の存在に支援者が気づき、そこからの回復のための安全・安心できる場や関係性を提供することの重要性が、改めて着目されるようになってきている。

しかしながら、対人援助職が身につけてきた専門知や、支援する/されるという構造それ自体が、複合的な困難を抱える人々に対してしばしば有効な支援として機能しないことがあるばかりか、時には侵襲的に作用することさえもある。精神科医療の現場で行われる、隔離や身体拘束などの行動制限や強制入院などによってトラウマ体験を重ねている人もいる。それぞれの医療者も持つスティグマや、支援構造が縦割りであることから、複合的な困難をかかえる人が、適切な治療や支援につながることから疎外されていることもある。医療をはじめとした支援の枠組みの中で産み出されている、当事者にとってのこのような不利益を前にして、支援者のあり方や支援の構造を変革していくことが求められている。

本プログラムのC-2地域連携型コースでは、このような時代背景と課題意識の元、地域の中で援助希求をしづらい/しない人、支援の現場にあらわれず、困難を抱えながらも地域の中でみえないところにいる人、支援者の前からすりといなくなっていくような人たちを前にして、対人援助職はどのような素養を身につけ、前向きな取り組みをなし得るのかという問いを立て、多様な領域で実際の活動をおこなっている講師と参加者が共同で考え、具体的な実践につながる学びを深めることを目的とする。

◆◆ 4 月 ◆◆

4 月は本コースのコンセプトについて、参加者とコアとなる講師が協働して精緻化し、価値に基づく実践(Value-based practice)、トラウマインフォームドケア(Trauma-Informed Care)、共同創造(Co-production)、構造変革(Organizational Change)などの柱となる概念を、現場実感と共に腑に落ちる形で理解することを目標とする。

4/13(土)AM	価値に基づく支援者育成における 3 つの基本素養 —Trauma-Informed Care, Co-production, Organizational Change—	笠井清登
4/13(土)PM	「価値」の理解に基づく精神医学	笠井清登
<p>本プログラムの総括コーディネーターである笠井より、本コースのコンセプトについての概説と、「価値」の理解に基づく精神科医療に関する講演を行う。社会や家族の中に存在しており、それぞれの人の成長過程の中で内在化されていく「価値」について多角的に理解すると共に、精神疾患の好発時期である思春期(Adolescence)を、社会との関わりの中で個人のもつ「価値」が再編されていく重要な時期と位置付け、人生の時間軸の視点をもった支援のあり方について深める。また、参加者同士の自己紹介や現在の仕事、課題意識について共有し、それぞれの現場で必要とされる素養や、取り組むべき実践について話し合う時間も作る。</p>		
4/14(日)AM	自他の身体に関する知識と社会変革 —当事者研究とソーシャルマジョリティー—	綾屋紗月
	トラウマとスティグマ —依存症自助グループのあゆみと課題—	上岡陽江
4/14(日)PM	当事者研究と専門知 —精神保健サービスの共同創造の方法論を目指して—	熊谷晋一郎
<p>4 月 14 日 AM は綾屋、上岡より、当事者研究の歴史、理念、方法、依存症の自助グループの歩みを通じたスティグマとトラウマに関する多角的理解、構造変革(Organizational Change)を念頭に置いたソーシャルマジョリティー研究(共同創造のためにマジョリティーの仕組みについて研究すること)の考え方についての講演を行う。発達障害と依存症の当事者研究の対比や、それぞれの障害者運動や当事者研究の中で得られた知見が障害をまたいで相互に有益であるという「クロスディスアビリティ」の考え方についても整理する。</p> <p>4 月 14 日 PM は熊谷より、綾屋と上岡の取り組みを当事者研究の全体像の中に位置づけつつ、当事者知と専門知を合わせることによる発展や、精神保健サービスを共同創造することを念頭に置き、本コースのコンセプトを更に深く理解するための講演を行う。ピア人材養成プログラム作成の試みや、当事者グループにおけるスーパービジョンについての取り組みについても学ぶ。</p>		

◆◆6 月◆◆

6/15(土)AM	プロジェクト内部ミーティング・演習	笠井清登
6/15(土)PM	対人支援サービスの質の評価と PDCA サイクル	水流聡子
<p>6 月 15 日 PM は、水流より、対人支援サービスの質の評価と PDCA サイクルに関する講演を行う。自らの個別支援のプロセスや組織としての業務プロセスについて分析し、支援の質の評価や改善を行うための方法論を、具体的なプロジェクトの紹介を通して学ぶことを目的とする。この講義を通して、自らの支援について振り返り、学習するという基本的素養を身につける。当事者と専門職による共同創造(Co-production)を通じた対人支援の構造変革(Organizational Change)をおこなっていく上で重要となる、支援の構造化・可視化のための基本的な考え方を身につけ、参加者が本コースの履修中に具体的な現場の中で実践もできるようになることを期待する。</p>		
6/16(日)AM	22q11.2 欠失症候群 —重複する障害を抱えた子どもとその家族の生活—	三ツ井幸子

6/16(日)PM	全市民を対象とした地域包括ケアにおけるメンタルヘルスの戦略	竹島正
<p>6月16日AMは、三ツ井より、22q11.2欠失症候群という、身体障害・知的障害・精神障害が併存しやすい染色体起因疾患をもつ子ども達と、それを支える親の体験する複合的な困難に関して、家族の立場から講演をおこなう。重複する障害をもつ人達を前に、医療・福祉・教育の仕組みをどのように変えていく必要がある、支援者にはどのような役割が求められるのか、家族会の立場で活動する講師と一緒に考える機会をもつ。</p> <p>6月16日PMは、竹島より、「高齢者に限らない全住民を対象とした地域包括ケア」をかかげる川崎市における精神保健のビジョンについて概観する講演を行う。地域のストレングスを活かし、コミュニティの抱えるトラウマからの回復に向けた地域レベルでの精神保健サービスの実践のための理念や方法論、援助希求の多様性に対応した支援のあり方などについて経験豊富な講師から学ぶ。自治体における支援サービスの質を継続的に向上させるための研究と実践の方法論についても、具体的なプロジェクトを元に整理する。</p>		

◆◆8月◆◆

8/17(土)AM	プロジェクト内部ミーティング・演習	笠井清登
8/17(土)PM	東日本大震災におけるメンタルヘルス	大塚耕太郎
<p>8月17日PMは、大塚より、岩手県での経験を元に、東日本大震災後のコミュニティメンタルヘルスの取り組みについての講演を行う。震災直後の安全確保のためのマネジメントから、中長期的な復興過程の中でそれぞれの被災地域ごとに生じてくる課題をアセスメントし、必要な支援構造を構築するための実践知を具体的な経験から学ぶ。震災以前から岩手県で取り組まれていた自殺対策の枠組み、東日本大震災以降に構築した「重層的な支援構造」の意義について整理する。被災者や震災を経験したコミュニティが回復していくプロセスと、そこで求められる支援者の素養を理解し身につけることを目的とする。</p>		
8/18(日)AM	文京区の地域精神保健 ープライマリ・ケアと精神科医療を統合した訪問診療の経験からー	夏堀龍暢
8/18(日)PM	文京区の虐待対策と子ども家庭支援	文京区子ども家庭支援センター 職員
<p>8月18日は、地域連携を主な目的とした本コースのコンセプトを、具体的な地域保健のフィールドを対象として構想し、実践することを念頭に置き、東京大学の立地する文京区をフィールドとして活動する支援者を講師としている。</p> <p>8月18日AMは夏堀から、文京区をはじめとした訪問診療の現場経験を通して、プライマリ・ケアと精神保健医療福祉の連動の重要性や、必要とされる地域連携について整理する。</p> <p>8月18日PMは文京区子ども家庭支援センターの職員を講師として、文京区の地域特性をふまえながら、要保護児童対策地域協議会をはじめとした子ども家庭支援や虐待対策の枠組みについて外観し、それらの領域と精神保健の連動の重要性について整理する。東京大学医学部附属病院も文京区に立地していることから、虐待対策と精神科医療の連動について、今後の発展の可能性を具体的に構想することを通して実践的な学びを深める。</p>		

◆◆10月◆◆

10/19(土)AM	プロジェクト内部ミーティング・演習	笠井清登
10/19(土)PM	死生学の展開とグリーフケア	島蘭進
<p>10月19日PMは、島蘭より、死生学やグリーフケアに関する講演を行う。グリーフケア研究の立場から、喪失を前に人々がどのようなケアをおこなってきたか概観し、「哀しい歌」をうたうということや、「あいまいな喪失」という概念などについてなど、死と喪失をめぐる多様な知を提供する。また、宗教学者の立場から、宗教を含めた人々のもつ「価値」についての気付きと理解を深めることも目的とする。東日本大震災以降に「臨床宗教師」として発展した宗教者による対人支援をはじめとした、民間の様々な互助についての理解を深め、コミュニティメンタルヘルスにおける地域連携の活性化に務められる素養も身につける。</p>		
10/20(日)AM	トラウマ支援の実践	鶴田信子
10/20(日)PM	臨床心理学と人類学 ―当事者との共同創造に向けた心理臨床の再考―	東畑開人
<p>10月20日AMは、鶴田より、トラウマをかかえる人を対象とした心理臨床の実践経験を通して、トラウマ臨床の基本となる考え方に関する講演を行う。</p> <p>10月20日PMは、東畑より、心理療法の人類学に関する講演を行う。様々な個別の心理療法がもつ人間理論の違いや「価値」について、人類学的な視点から俯瞰的・相対的な理解を深め、自らが提供する支援のあり方について見つめなおすことを、対人援助職の基本的な素養として身につけることを目的とする。加えて、当事者との共同創造を念頭に置き、心理臨床家や臨床心理学は今後、何を引き継ぎ、どのように変化(Organizational Changeを含む)していくことが求められるのか、参加者を交えて考察を深めていく。</p>		

◆◆12月◆◆

12/21(土)AM	プロジェクト内部ミーティング・演習	笠井清登
12/21(土)PM	ピアサポートとリカバリー	宮本有紀
<p>12月21日PMは、宮本より、英国を中心に先進国で発展し、日本にも広がりつつあるリカバリーカレッジの理念と実践を題材として、リカバリーとピアサポートについての講演を行う。当事者と専門職の共同創造(Co-production)をすすめていく上で重要となり、リカバリーカレッジの鍵となる要素でもある、それぞれの専門性を持ち寄りともに学ぶこと(educational model)の思想についての理解を深めることを含む。</p>		
12/22(日)AM	プロジェクト内部ミーティング・演習	笠井清登
12/22(日)PM	精神保健研究の方法論	山口創生
<p>12月22日PMは、山口より、共同意思決定(Shared decision making)やアンチスティグマ、ピアサポート、IPS(Individual placement and support)などの重要なテーマを題材とし、精神保健サービスを改善していくための研究の方法論や考え方に関する講演を行う。</p>		

◆◆2月◆◆

2/15(土)AM	プロジェクト内部ミーティング・演習	笠井清登
2/15(土)PM	学校メンタルヘルスと若者の自殺対策	石井綾華
<p>2月15日PMは、石井より、自身が代表を務めるNPO法人が行う若者の自殺対策の実践を通して、ピアサポートのための基本的素養や、それらをどのように学校をはじめとしたコミュニティの中で普及させていくことができるかという方法論に関する講演を行う。援助することと援助されることの対称性と非対称性について理解し、身近な人の支え手を支えるというアイデアに基づいて、具体的な臨床実践の現場で支援が届きにくい人に有効な支援を届けるための方策を身に付けることを目的とする。</p>		
2/16(日)AM	プロジェクト内部ミーティング・演習	笠井清登
2/16(日)PM	薬物依存症をもつ人を地域で支える	松本俊彦
<p>2月16日PMは、松本より、刑の一部執行猶予制度下で刑務所内処遇から社会内処遇へと施策の転換が行われ、社会の中に増えつつある薬物依存症をもつ人の地域生活を支えるための支援について、基本的な考え方を身につけるための講演を行う。トラウマを背景とし、苦痛を和らげるための自己療養としての物質依存をもつ人に対して、厳罰主義的な対応は無効であるばかりかトラウマ体験を重ねて回復を妨げるということを確認する。その上で、SMARPPやVoice Bridges(声の架け橋) Projectなど、松本が牽引して全国的にひろがりつつある薬物依存症地域支援のための具体的な取り組みについて、その理念と実践のための方策について共有することを通して、トラウマとアディクションの統合的な支援の考え方に基づいた、具体的な臨床実践を展開できるための素養を身につける。</p>		

これらの講演に加えて、チューターを交えた参加者同士のプロジェクト内部ミーティング・演習を、年間を通して行う。コース参加者がそれぞれの立場で対峙している課題に対して、講師や参加者との対話や学びを通して向き合い、自らの臨床実践のブラッシュアップをはかるとともに、現実的かつ具体的なプロジェクトを実際に立ち上げることを通じた実践的な学びを得ることも目標とする。